

-令和6年度全国学力・学習状況調査概要説明-

1 調査について

実施日 令和6年4月18日(木)

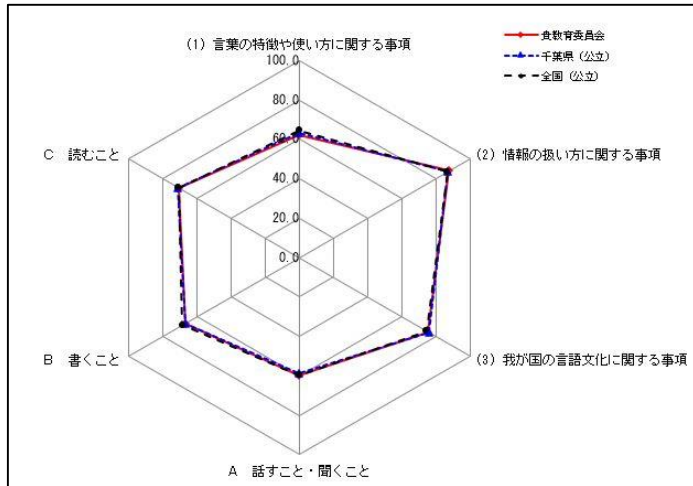
実施教科 小学6年 国語 算数

中学3年 国語 数学

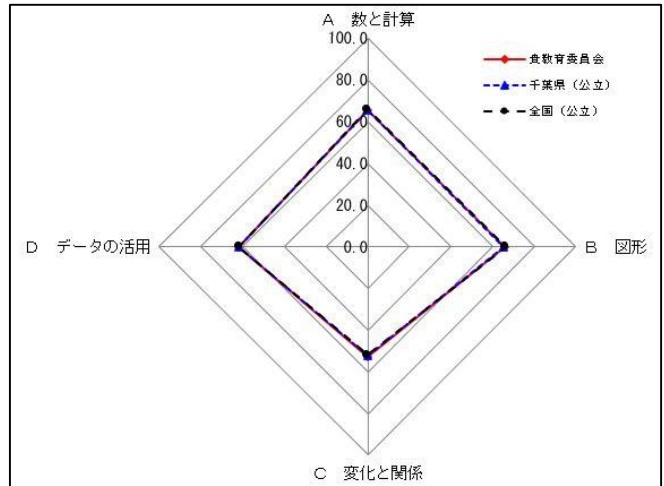
共通 児童生徒質問紙調査

2 柏市調査結果概要

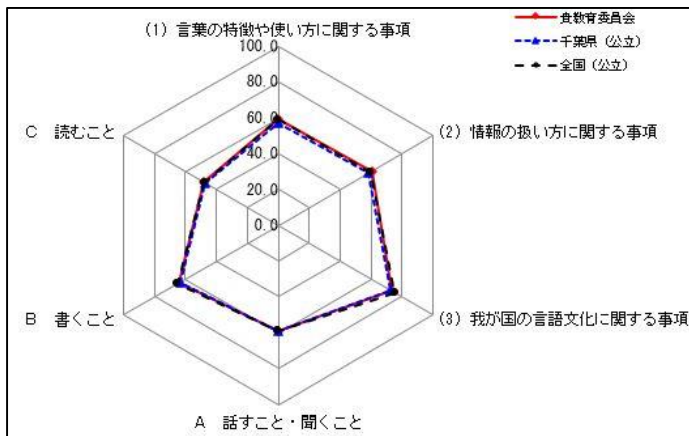
小学校 国語



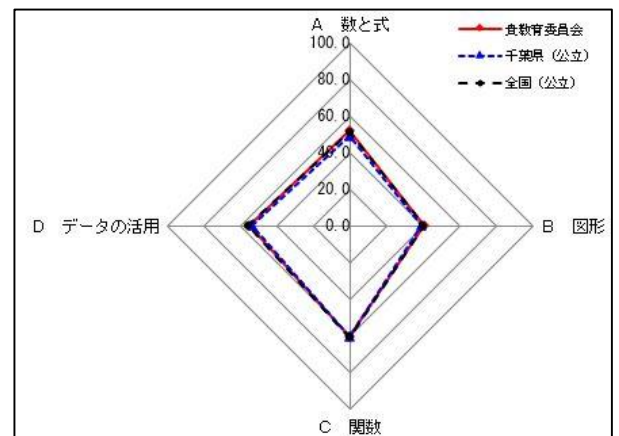
小学校 算数



中学校 国語



中学校 数学



結果のポイント 小学校

国語

- 多くの児童が取り組めている記述問題もあるが、目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるようにするための書き表し方の工夫に課題がある。伝えたいことを明確にし、客観的な事実を取り上げることで考えをより深めていくことができるようにすることが大切である。
- 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができている。

算数

- 図形について基礎的・基本的な知識・技能は身に付いているが、深い理解を伴う知識の習得やその活用には課題がある。図形を構成する要素を見だし、活用できるように指導することが必要である。

結果のポイント 中学校

国語

- 多くの生徒が取り組めている記述問題もあるが、目的に応じた内容になっていない解答も見られる。自分が表現した内容を確認し、目的に照らし合わせて改善することができるよう指導することが大切である。

数学

- 一次関数について、基礎的・基本的な知識・技能は身に付いていると考えられるが、問題解決の過程を数学的な表現を用いて説明することに困難がみられる。問題解決する場面を設定し、表、式、グラフなど数学的な表現を用いて説明できるように指導することが大切である。

3 課題がみえた問題と、指導改善のポイント

小学校 国語 大問2 ニ 柏市正答率 53.3% 無回答率 5.3% 全国正答率 56.6%

「たてわり遊び」に関する高山さんの文章の空欄に、次の条件に合わせた内容を書く。
条件①「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書くこと。
条件②下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げて書くこと。

【高山さんの考え】

「たてわり遊び」と「運動会」は、どちらも1年生から6年生までが同じ「たてわりはん」で活動していて、みんなが仲良しになる。このことが学校の一番のよさだと思うから、文章に書こう。



【高山さんの文章】

【高山さんの取材メモ】

みんな仲良し「たてわりはん」

わたしたちの学校には、1年生から6年生までのメンバーが、同じはんで活動する「たてわりはん」の取り組みがあります。「運動会」や「たてわり遊び」を通して、ちがう学年の人とも仲良くなります。

「運動会」は、「たてわりはん」ごとに赤、青、黄の色を決め、3色対こうで行います。上級生が下級生に応えんの仕方を教えたり、下級生も楽しめるように、アきょうぎの作戦を考えたりします。「みんなでつな引きをして楽しい」という2年生や、「下級生といっしょに応えんして熱い気持ちになる」という5年生がいます。このように、「運動会」のよいところは、みんなの心が一つになるところだと思います。

「たてわり遊び」は、毎月1回、休み時間に「たてわりはん」で遊ぶ活動です。みんなが楽しめるように、6年生が、遊びたいことを下級生に聞いたり、ルールをくふうしたりします。例えば、ドッジボールでは、上級生が遠くからボールをイなげるようにしています。

「たてわり遊び」について

6年生がくふうしていること

- 遊びたいことを下級生に聞く
- ルールをくふうする

ドッジボール 上級生は遠くからボールをなげる

下級生に聞いたこと

- 1年生 お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった
- 3年生 好きな遊びや新しい友達が増えた
- 4年生 みんなが楽しそうでうれしかった

正答例	「お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった」という1年生や、「みんなが楽しそうでうれしかった」という4年生がいます。このように、「たてわり遊び」のよいところは、学年をこえた交流ができることだと思います。
誤答例	たてわり遊びをしている下級生の1年生は「お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった」や、3年生は「好きな遊びや新しい友達が増えた」と答えてくれました。このように、みんなでたてわり遊びをしました。
○誤答例の解説 このように解答した児童の中には、「たてわり遊び」のよさを認識しているものの、そこから自分の考えをもつことができず、事実と感想、意見とを明確に区別せずに、事実を自分の考えのように書いてしまった児童がいたと考えられる。	

分析のポイント

目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるようにするための書き表し方を工夫することに課題がある。

指導改善のポイント

自分の考えと理由や事例との関係を明確にしたり、事実と感想、意見とを区別して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したりすることに関する以下のような指導の充実が大切である。

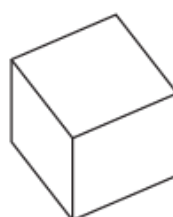
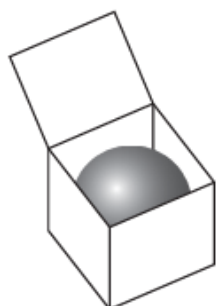
- 文章を書く目的や意図に応じて伝えたいことを明確にし、客観的な事実を取り上げることで考えをより深めていくことができるようにする指導の充実
- 取り上げた事実が、自分の考えを裏付けるものになっているかどうかを振り返り、事実と考えとの関係を明確にできるようにする指導の充実

直径22cmの球がぴったり入る立方体の体積を求める式を書く。

(3) 直径 22 cm の球の形をしたボールがあります。



このボールがぴったり入る立方体の形をした紙の箱の体積を調べます。



この立方体の形をした紙の箱の体積が何 cm^3 かを求める式を書きましょう。
ただし、紙の厚さは考えないものとします。また、計算の答えを書く必要はありません。

正答例	$22 \times 22 \times 22$
誤答例	① 22×22 ② 22×3.14 など 3.14 を用いた式 ③ 22×6 等
○誤答例の解説	
① 22×22 と解答している児童は、球の直径の長さで立方体の一辺の長さを捉えていることはできているが、立方体の一つの面の面積の求め方を式にしていると考えられる。	
② 22×3.14 と解答している児童は、円の直径と円周率から体積を求めることができると誤って捉えていると考えられる。	
③ 22×6 と解答した児童は、円の直径と立方体の面の数から体積を求めることができると誤って捉えていると考えられる。⇒体積の単位とこれまでに学習した球の直径の長さや立方体を構成する要素との関係を考察できていないと考えられることから、深い理解を伴う知識の習得に引き続き課題がある。⇒身の回りの形から図形を捉え、図形を構成する要素を見だし、体積を求めるために必要な情報を判断できるようにすることが重要である。	

分析のポイント

球の直径の長さで立方体の一辺の長さを捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことに課題がある。

指導改善のポイント

身の回りの形から図形を捉え、図形を構成する要素を見だし、体積を求めるための必要な情報を判断できるようになることが重要である。

【話し合いの一部】

山岡さん 皆さんは、【フィルターバブル現象の資料】にあるような経験がありますか。

今井さん 私の兄は、時々、インターネットで検索して本を買っているのですが、趣味にしている将棋に関する本の表示が多くなったと言っていました。これは、フィルターバブル現象が起きているということでしょうか。

山岡さん 《解説》の例と同じような状態ですね。インターネットを利用して本を選ぶと、フィルターバブル現象の影響を受ける可能性があります。では、話題を「フィルターバブル現象と本の選び方」にして話し合ってみませんか。

今井さん 身近なテーマでよいと思います。私は、兄のようにインターネットで本を買うことはないのですが、皆さんはどうですか。

藤田さん 私は、この前、インターネットで和菓子作りの本を探して購入しました。そのあと、インターネットを利用するたびに、和菓子作りに関する本が表示されるようになって、次に読みたい本もすぐに見付かりました。

今井さん たくさん本がある中で、自分の好みに合った本を選んで示してくれるのは、便利ですね。でも、他の本の情報に触れにくくなっているとは感じませんでしたか。

藤田さん そうですね。言われてみれば、和菓子作りに関する本がたくさん表示されていたので、最近、それ以外の本の情報にあまり触れていなかった気がします。《図》のこのあたりにいるような感覚ですね。今井さんは、ふだんどうやって本を選んでいるのですか。

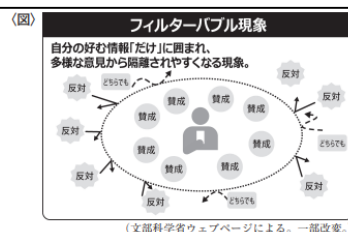
今井さん 私は、図書館や書店で本を選んでみます。読みたい本を見付けるには時間がかかりますが、本棚を眺めていると、思いがけない本との出会いがあって興味広がると感じています。

藤田さん 図書館や書店でいろいろな本棚を眺めながら本を選ぶと、時間はかかっても、情報が偏るような状態にはならないでしょうね。

山岡さん そういえば、インターネットでも様々な人がおすすめの本を紹介しているウェブページがありますよ。そこで紹介されている本は、本を探している側の好みによって選ばれているわけではないので、フィルターバブル現象の影響は受けにくいのではないのでしょうか。

今井さん そのような本の選び方は、学校図書館で、おすすめの本のコーナーから本を選ぶことと似ていますね。おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているので、自分とは異なる価値観に触れることもできますね。

山岡さん フィルターバブル現象のことを意識すると、本の選び方についても改めて考えてみる必要があると感じました。皆さんは、これからどのように本を選ぶと思いますか。



《解説》
インターネットで検索したり閲覧したりした履歴が、使用した通信機器などに記憶され、解析されることで、その利用者の好み情報が優先的に表示されるようになる。一方で、好まないと思われる情報は、はじかれてしまう。このような、情報の偏りが生じたり多様な意見に触れにくくなる状態のことを「フィルターバブル現象」という。
例えば、野球についての検索を多くしていると、次第に野球に関する情報が優先的に表示されるようになる。

問題 四

【話し合いの一部】の山岡さんの最後の発言を受けて、あなたならどのような考えを述べますか。
次の条件1と条件2にしたがって、実際に話すように書きなさい。
条件1 フィルターバブル現象の特徴について取り上げながら、これからどのように本を選びたいかを具体的に書くこと。
条件2 【話し合いの一部】の誰の発言と結び付くのが分かるように書くこと。

誤答例	正答例
自分が好む情報ばかりが表示されて多様な意見に触れにくくなる状態がフィルターバブル現象なので、そうならないように図書館などで本を選びたいと思います。	山岡さんの発言にあった、様々な人がおすすめの本を紹介しているウェブページを利用してみたいと思います。自分とは異なる価値観に意識して触れ、多様な意見に触れにくい状態に陥らないようにすることが大切だと思いました。
フィルターバブル現象の特徴について取り上げながら、これからどのように本を選びたいかを具体的に書くことと、実際に話すように書くことはできているが、【話し合いの一部】の誰の発言と結び付くのが分かるように書くことができていない。または、誰がどのような発言をしたのかを適切に捉えて書くことができていない。	〇誤答例の解説 フィルターバブル現象の特徴について取り上げながら、これからどのように本を選びたいかを具体的に書くことと、実際に話すように書くことはできているが、【話し合いの一部】の誰の発言と結び付くのが分かるように書くことができていない。または、誰がどのような発言をしたのかを適切に捉えて書くことができていない。

分析のポイント

必要に応じて自分の考えをまとめる力に課題がある。

指導改善のポイント

言語活動を通して、適切な機会を捉えながら、話し手が伝えたいことを確かめたり、足りない情報を聞き出したりするなどしながら、目的や状況に応じて自分の考えをまとめられるように指導することが大切である。

10cmの位置から進んだ距離の分布から、「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張できる理由を、10cmの位置から進んだ距離の分布の5つの箱ひげ図を比較して説明する。

- 7 海斗さんと咲希さんは、安全性を高めるためにセンサーで障害物を感知して止まる自動車があることを知り、興味をもちました。
そこで、車型ロボット用のプログラムによって走らせることのできる車型ロボットを使って実験することになりました。

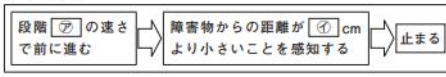
車型ロボットの説明

- 障害物からの距離を測定できるセンサーがついている。



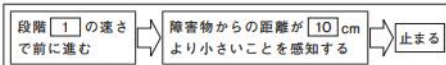
- プログラムの [2]、[4] に値を入れることによって、車型ロボットの速さと、障害物からの距離を設定し、車型ロボットの動きを止めることができる。
○ [2] は、速さとして最も遅い段階1から最も速い段階5まで設定できる。
○ [4] は、距離として3cmから500cmまで設定できる。

プログラム



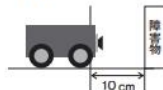
海斗さんは、まず、プログラムの [2] に1を、[4] に10を入れて、次のように設定しました。

海斗さんが設定したプログラム



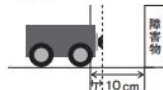
この設定で、海斗さんが車型ロボットを障害物に向けて走らせてみたところ、次の図1のように、設定した10cmの位置よりも進んで止まりました。

図1



そのようを見て、海斗さんは、車型ロボットが10cmの位置からどれくらい進んで止まるかになりました。そこで、次の図2のように、10cmの位置から進んだ距離を測る実験を20回行い、その結果を下のよう小さい順に並べました。

図2



10cmの位置から進んだ距離

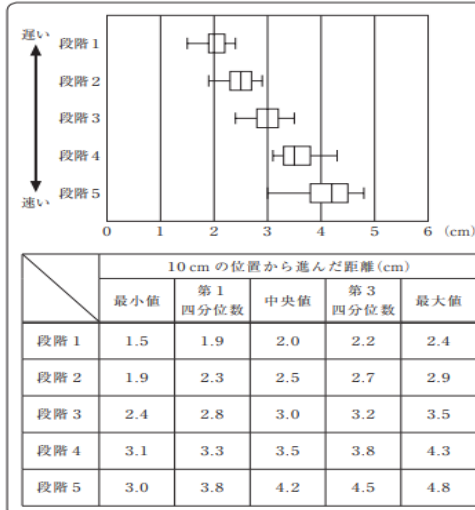
10cmの位置から進んだ距離について調べた結果

1.5 1.9 1.9 1.9 1.9 1.9 1.9 1.9 2.0 2.0
2.0 2.0 2.1 2.1 2.2 2.2 2.2 2.2 2.4 2.4

(単位: cm)

- (2) 咲希さんは、車型ロボットの速さを変えたときに、10cmの位置から進んだ距離がどうなるか調べることにしました。そこで、速さを段階1から段階5まで変えて、10cmの位置から進んだ距離をそれぞれ20回ずつ調べ、データを集めました。そして、データの分布の傾向を比較するために箱ひげ図に表しました。

10cmの位置から進んだ距離の分布



説明

したがって、速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある。

正答例

(正答の条件) 次の(a)又は(b)について記述しているもの

(a)箱ひげ図の箱がだんだんと右側にずれていくこと。

(b)第1四分位数と第3四分位数がだんだんと大きくなっていること。

(正答例)

・速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、箱ひげ図の箱の位置が右側にずれていくこと。

・速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、第1四分位数と第3四分位数が大きくなっていること。

誤答例

・速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、箱ひげ図が右側にずれていくこと。

・段階1と段階5を比べると約2倍の差がある。

○誤答例の解説

複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるようにすることが重要である。

分析のポイント

四分位数や四分位範囲といった箱ひげ図の基本的な特徴の理解について課題がある。

指導改善のポイント

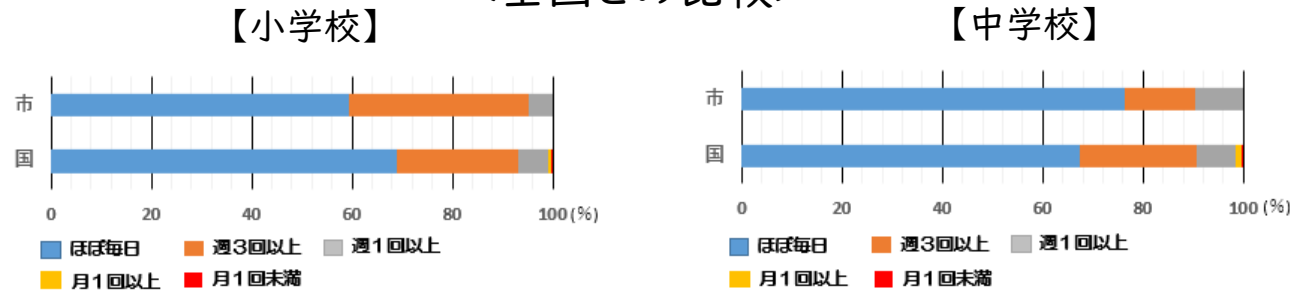
複数のデータを整理し、代表値を求めたり、グラフで表したりして、その結果をもとにデータの分布の特徴や傾向を読み取って判断し、表現する活動を授業に取り入れる。

◆ICTを活用した学習状況

＜学校質問紙＞

調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

＜全国との比較＞



◆ICT機器活用の効力感

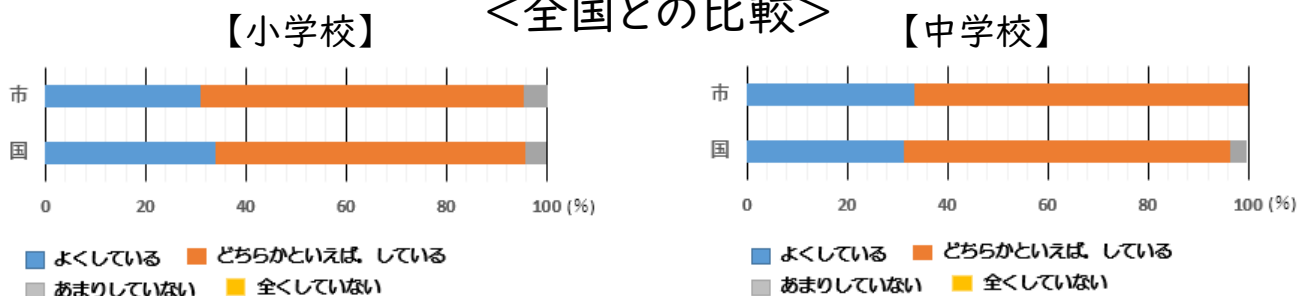
(1) 自分のペースで理解しながら学習を進めることができる 肯定的回答の割合 児童85.6%（全国85.5%） 生徒81.9%（全国80.2%）	(2) 分からないことがあった時に、すぐ調べることができる 肯定的回答の割合 児童92.7%（全国92.1%） 生徒95.4%（全国93.9%）
(3) 楽しみながら学習を進めることができる 肯定的回答の割合 児童84.1%（全国86.0%） 生徒81.8%（全国82.4%）	(4) 画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる 肯定的回答の割合 児童88.5%（全国89.8%） 生徒89.3%（全国89.0%）
(5) 自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる 肯定的回答の割合 児童78.6%（全国79.2%） 生徒79.7%（全国77.7%）	(6) 友達と考えを共有したり比べたりしやすくする 肯定的回答の割合 児童84.6%（全国86.1%） 生徒86.3%（全国86.2%）
(7) 友達と協力しながら学習を進めることができる 肯定的回答の割合 児童87.3%（全国87.1%） 生徒86.2%（全国85.2%）	柏市ではICT機器の活用が進んでいます。活用の効力感も全国を上回る回答が多い結果となりました。ICT機器は文房具の一部として、学習で有効活用されています。

◆主体的・対話的で深い学びの視点による学習への取組状況等

＜学校質問紙＞

調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業において、生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか

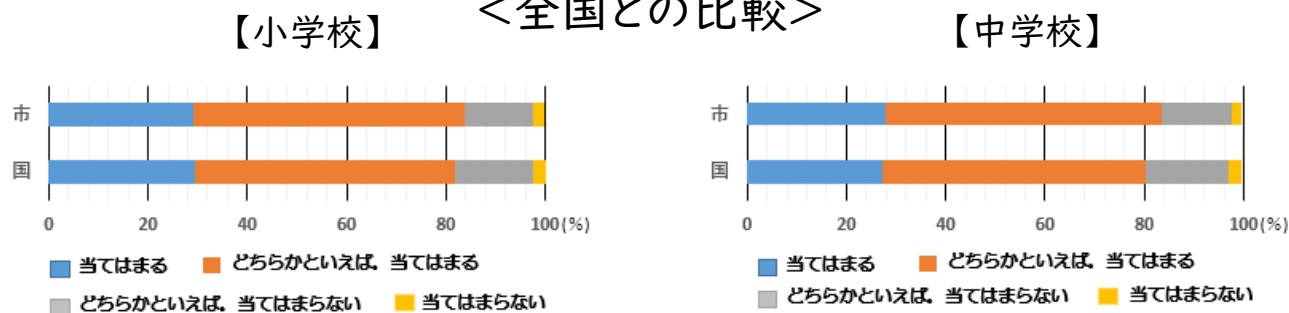
＜全国との比較＞



＜児童生徒質問紙＞

小学校5年生（中学校1、2年生）までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

＜全国との比較＞



＜経年変化＞

肯定的回答の割合（柏市）

児童 R4 77.6%
R5 80.4%
R6 83.6%

肯定的回答の割合（柏市）

生徒 R4 78.7%
R5 78.4%
R6 83.4%

肯定的回答の割合（国）

児童 R4 77.3%
R5 78.8%
R6 81.9%

肯定的回答の割合（国）

生徒 R4 79.2%
R5 79.2%
R6 80.3%

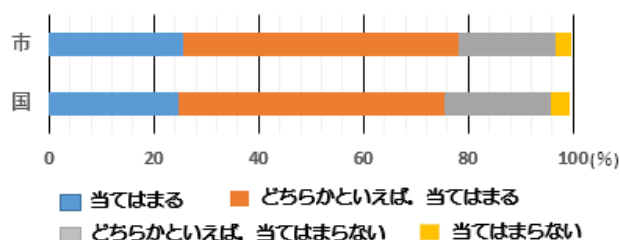
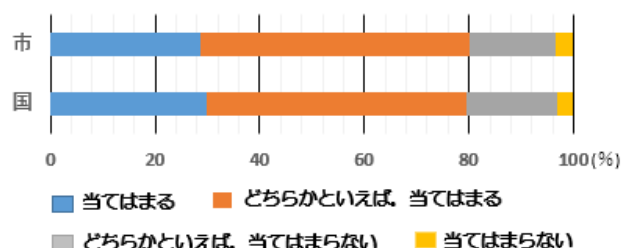
<児童生徒質問紙>

小学校5年生まで(中学校1、2年生のとき)に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか

【小学校】

<全国との比較>

【中学校】



<経年変化>

肯定的回答の割合(柏市)

児童 R4 71.6%

R5 75.0%

R6 80.2%

肯定的回答の割合(柏市)

生徒 R4 67.3%

R5 65.5%

R6 77.9%

肯定的回答の割合(国)

児童 R4 72.2%

R5 74.4%

R6 79.6%

肯定的回答の割合(国)

生徒 R4 67.4%

R5 69.1%

R6 75.4%

柏市の「主体的・対話的で深い学びの視点による学習への取組状況」は、学校質問紙、児童生徒質問紙共に、肯定的な回答が国の結果を上回りました。

柏市では今後とも、「個別最適な学び」「協働的な学び」に関する研修を実施し、主体的・対話的で深い学びに向けた授業づくりに努めます。

※ 全国学力・学習状況調査の分析結果について

本調査は必ずしも過去の学習内容全体を網羅するものではなく、把握できるのは、あくまでも個々の学力の特定の一部分であることを申し添えます。